

<教育目標>



英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

平成 29 年 12 月 25 日発行

No.12 校長 矢口 仁

新しい^ま都会^ちに (中野中だより)

才能とは続けられること — 羽生善治九段から学ぶ — 校長 矢口 仁

クリスマスキャロルに寝息静かな子 稲畑 廣太郎

明日から冬休みです。二週間を計画的に過ごしてほしいと思います。じっくりとこの一年を振り返り、清新な気持ちになって、新しい年を迎えてください。



さて、今年是将棋の話題がいくつかありました。中学生の 藤井 聡太 四段が、デビュー以来 29 連勝を達成したのが 6 月、また、最近では 羽生 善治 九段 が永世七冠を達成しました。囲碁の井山十段とともに国民栄誉賞かという話題もありました。

将棋は、81 マスの中で、状況の変化を読みながら 20 枚の駒を操り、勝敗を競います。取った相手の駒を使ってよいというルールが独特です。そのような将棋の世界は、限りなく奥深いものです。以前、羽生善治九段著の『才能とは続けられること』を読み、多くの考え方を学んだことがあります。

羽生さんは、小学校 1 年の時、15 級からスタートしました。他の子は 8 級から始めるのですが、あまりにも弱かったからです。しかし、4 か月ほどで皆に追いつき、その後は将棋がおもしろくて熱中し、6 年でプロを目指そうと決めました。

「いくら考えても将棋のコツがわからなかった。コツをつかんで好きになることもあります。私はその逆でいくらやってもわからないことに魅力を感じました。大人になっても、今だにそれがわからなくて、だから夢中になっていられるのだと思います。」

中学 3 年でプロ入り、19 歳で初めて「竜王」のタイトルを獲得しました。プロ棋士の實力には大きな差がなく、ギリギリのところまで戦っているそうです。そこで勝負を分けるのが精神力だと言います。不利な状況をプラスにとらえられるかどうかは勝敗をわけるかぎだと羽生さんは言います。

「将棋は判断力が重要です。一手で局面が変わるので、それに対する適応力も必要です。これは、日頃からやっておかないと力が落ちてしまい、怠けるとだめです。」

「地道に、着実に一步一步前に進み続けられることは、何よりの才能ではないかと思えます。」

何をするにしても、一朝一夕でできるようになるものではありません。少しずつでよいから、努力を継続していくことでしか、力を伸ばす道はないのでしょうか。羽生さんの言葉から、改めて感じます。皆様、どうぞよい年をお迎えください。

☆ 1月の主な行事予定

1	月	元日
2	火	
3	水	
4	木	仕事始
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	成人の日
9	火	全校集会
10	水	校内研修会
11	木	
12	金	
13	土	学校公開
14	日	
15	月	朝礼 安全指導 移動教室事前検診(2)
16	火	専門委員会
17	水	職員会議
18	木	中央委員会
19	金	
20	土	
21	日	
22	月	スキー移動教室(2)
23	火	
24	水	↓ 学校給食週間始(~30日)
25	木	
26	金	都立高校推薦入試 私立高校出願
27	土	同上
28	日	
29	月	生徒会朝礼
30	火	
31	水	

◎ 生徒たちの活躍

今、求められてる学力は、単に知識・技能の習得だけでなく、思考・判断・表現する等、習得した基礎的なものを活用する力です。その中の、表現力を活かし、生徒たちは様々な分野で力を発揮しています。

【税の作文コンクール】

優秀賞 1名

【税の標語コンクール】

佳作 1名

【生命保険文化センター作文コンクール】

佳作 3名

☆ 3年生の面接練習を通して

毎年この時期に、3年生全員と個人面接をしています。これは、高校等の入学試験面接に備えるためのものです。また、一人一人の内面を理解することにも役立っています。

その中で、「あなたが通っている中野中学校のよいところはどのようなところだと思いますか。」という質問をすることがあります。その回答から、生徒の目から見た中野中学校の姿が浮かんできます。

「新しい学校で設備が素晴らしく、学習するのによい環境の学校です。」

「生徒と先生の距離が近く、先生方が親身で、丁寧に教えてくれる学校です。」

「男女の仲や、先輩・後輩の関係がよく、過ごしやすい学校です。」

「あいさつ運動をするなど、あいさつを大切にする明るい雰囲気の良い学校です。」

「読書活動が盛んで、たくさん本がそろっている立派な図書館があります。」

緊張しながらも真摯に回答する生徒の顔を見ていると、さらによりよい学校にしていきたいとつくづく思います。

成人の日：大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を励ます国民の祝日